

台湾高座会帰国 70 周年記念大会への祝辞

元台湾総統 李登輝

台湾高座会の皆さんの帰国 70 周年を記念した大会が、多数のご来賓の方々をお迎えし、多くの実行委員会の皆様のご尽力によって、台中で盛大に開催されますことを、心からお祝い申し上げます。

台湾高座会の皆さんが帰国 70 周年を迎えるということは、私にとっても日本内地から台湾に戻って 70 周年を迎えたということになります。

京都で学び、学徒兵として名古屋で敗戦を迎えた後、李雪峰会長らと同じ「米山丸」に乗船して基隆港に帰って来たのは昭和 21 年 1 月のことでした。

大東亜戦争中の昭和 18 年、日本は向学心に燃える台湾の少年に、働きながら勉強すれば旧制中学や専門学校が卒業でき、更に航空機技師への道も開けるという制度を作って、不足する熟練労働力を補おうとしました。

多くの心身ともに優秀な台湾の青少年が応募し、厳しい選抜試験を突破した 8400 名が、当時の神奈川県高座郡に新設された後の高座海軍工廠、海軍空 C 廠へ赴いたと伺っております。

その地で未だ紅顔と言ってよい台湾の少年工たちは、経験したことのない寒さ、戦時下の食糧不足、敵機の爆撃目標となる恐怖に耐えながら、懸命に働き立派にその責任を果たしました。敗戦により志半ばで帰国した後も、多くの困難に打ち勝ちながら、台湾の工業化と民主化のために、大きな貢献を果たされました。

戦後の台湾が奇跡とさえいわれる経済発展を成し遂げ、「アジアの四小龍」と呼ばれた陰には、高座会の皆様のご努力があったことを決して忘れてはなりません。

本日の台湾高座会帰国 70 周年記念大会には、多くの会員の皆様が元気に出席されると伺っております。

いまや台湾高座会は、台湾と日本をつなぐ最大の知日・親日勢力として、日台交流の力強い絆になっておりますが、国際社会が混沌とするなか、日本と台湾の関係強化は益々重要となっており、日台の「心と心の絆」をより密接にするためにも、引き続き皆様のお力添えを心よりお願いして、台湾高座会帰国 70 周年歓迎大会への私の祝辞といたします。